

所属 総合文化グループ	職名 教授	氏名 福田 嘉一郎	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月～現在	具体的で身近な例から観察を始め, 一般的な規則・法則の発見へと導く。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・共 著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
日本語の配慮表現の多 様性 歴史的変化と地理 的・社会的変異	共著	2014年6月	くろしお出版	野田尚史, 高山善行, 小林隆 (編)	167頁～183頁
名詞類の文法	共著	2016年11月	くろしお出版	福田嘉一郎, 建石始 (編)	全239頁
論文					
(書評論文) 矢島正浩著 『上方・大阪語における条 件表現の史的展開』	単著	2014年9月	日本語文法学会 日本語文法 (第14巻第2号)		144頁～152頁
日本語の述語時間表現 の機構と歴史	単著	2015年3月	京都大学文学研究科博士論文		全
叙想的テンスの出現条 件	単著	2015年5月	京都大学国文学会 国語国文 (第84巻第5号)		197頁～211頁

Forms of Predicative Propositions in Early Middle Japanese: Japanese Morphology and Inflection	単著	2016年8月	東方学会 ACTA ASIATICA (111)		35頁～51頁
書評					
工藤真由美著『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』	単著	2016年1月	日本語学会 日本語の研究 (第12巻第1号)		43頁～51頁
発表					
日本語形態論と活用	単独	2015年5月	東方学会 第60回国際東方学会議 シンポジウム・日本語研究の現状と課題 (於 日本教育会館)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					